

公益財団法人 J R 西日本あんしん社会財団
平成 23 年度 事業報告
(平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日まで)

I 事業概要

平成 23 年度事業計画に基づき、心身のケアや地域社会の安全構築等に資する「安全で安心できる社会」の実現に寄与する以下の事業を実施した。

特に、助成先として地域に根ざした活動に取り組んでいる NPO 法人やボランティア団体等を訪問し、コミュニケーションの活性化を図るとともに、助成事業の成果発表や助成先との交流の場としての「第 1 回活動助成報告会」や自治会組織等との連携した主催事業の開催など、「地域との連携」をより強く意識しつつ事業を展開した。

1. 心身のケアに関わる事業

(1) グリーフケアに関する活動への助成（上智大学グリーフケア研究所への助成）

①公開講座『『悲嘆』について学ぶ』への助成

悲嘆（グリーフ）やグリーフケアの社会啓発だけでなく、実際に悲嘆を抱えている方々にとっての癒しの場となっている上智大学グリーフケア研究所の公開講座「『悲嘆』について学ぶ」に対し、寄付助成を行った。

平成 23 年度は、第 8 期（平成 23 年 4 月～7 月）と同講座の最終期となる第 9 期（平成 23 年 10 月～平成 24 年 2 月）が開講され、多様な視点から悲嘆やグリーフケアなどに関する講演が延べ 30 回行われた。各期定員を大幅に超える受講申し込みがあり、事故や病気による死別を体験した方と接する医療関係者のほか、悲嘆に陥られている方々など多様な人々が受講された。

②人材養成講座への助成

誰もが安心してグリーフケアを受けられる社会を目指し、グリーフケアに関する専門知識を持って実践に携わる人材や地域社会においてグリーフケアに関わる市民ボランティアを養成している上智大学グリーフケア研究所の人材養成講座に対し、寄付助成を行った。

同講座はステップアップ方式となっており、平成 23 年度は「グリーフケア基礎コース」（グリーフケアの基礎知識や基礎的な対人援助スキルを習得）、「グリーフケアボランティア養成コース」（グリーフケアに関わる臨床現場で必要な知識、技術を習得）、「グリーフケア専門コース」（グリーフケアとスピリチュアルケアの実習と演習）の 3 つのコースが開設され、各コース合計で 72 名が修了した。

(2) 心身のケアに関する普及啓発活動

「いのち」を見つめ、考える講演を通して、苦悩や不安、悲しみを抱える方に心の癒しを提供するとともに、支えあいのネットワークの中で生きることのすばらしさを実感していただけるような場として、「こころのセミナー」を開催している。平成 23 年度は、作家の五木寛之先生による講演と当財団の助成先である「関西いのちの電話」からの活動報告を行った（参加約 500 名）。

<実施概要>

テーマ：「いのち」を考える ～支え助け合う社会をつくる～

日時：平成 23 年 7 月 24 日（日） 13 時 30 分～16 時 00 分

場所：ホテルグランヴィア大阪 名庭の間

内容：『関西いのちの電話の活動報告』 関西いのちの電話事務局長 八尾 和彦

『講演「いまを生きる力」』 作家 五木 寛之

2 地域社会の安全構築に関わる事業

(1) 地域社会の安全構築に関わる研究への助成（京都大学「社会基盤安全工学講座」への助成）

平成 20 年 4 月に開設され、社会基盤設備の安全性向上に関わる研究を行う京都大学「社会基盤安全工学講座」に対し、平成 24 年度分の寄付助成を行った。

〈研究テーマ〉・モニタリングによるリスク評価と新しい安全性評価指標の構築
・実務に適合した合理的な設計手法、維持管理手法の構築に関する研究

(2) 安全に関する普及啓発活動

① 「安全セミナー」の開催

地域社会における安全構築の重要性を踏まえ、企業や行政活動、市民生活における安全確保や事故防止に資するテーマを取り上げ、「安全セミナー」を開催している。平成 23 年度は、東日本大震災や平成 23 年 9 月の台風 12 号被害などを契機に、改めて災害に対する備えやリスクマネジメントの重要性が認識されたことを踏まえ、災害時のリスクマネジメントを考えるセミナーを開催した（参加約 500 名）。

テーマ：「災害と危機管理～みんなで考える災害への備え～」
日 時：平成 23 年 12 月 21 日（水） 13 時 30 分～16 時 30 分
場 所：尼崎市総合文化センター アルカイクホール・オクト
内 容：講演「参加型災害リスクマネジメントーまちづくりや組織の戦略的取り組みとして」
京都大学防災研究所附属巨大災害研究センター災害リスクマネジメント分野
教授 岡田 憲夫
講演「東日本大震災を教訓として『エネルギー』を考える」
一般社団法人日本ガス協会常務理事 池島 賢治

② 「救急フェア」の開催

駅を利用される方々をはじめとした市民の方々に、①「救急現場に居合わせた時の救命処置」の重要性を広く啓発し、心肺蘇生法等の知識・技能や方法を習得していただくとともに、②「駅における緊急対応」として駅ホーム非常ボタンの模擬体験等をしていただくこと等を目的に、消防やNPO法人等の協力を受けながら、西日本旅客鉄道株式会社との共催で「救急フェア」を開催している。平成 23 年度は、京阪神の JR 西日本の 7 駅において開催し、延べ約 3,000 名の方々に参加いただいた。

| | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|-----|-------|-----|
| 5/18 | 京都駅 | 6/4 | 三田駅 | 7/2 | 大阪駅 | | |
| 9/10 | 天王寺駅 | 9/17 | 三ノ宮駅 | 10/8 | 伊丹駅 | 10/15 | 尼崎駅 |

※9/3 に宝塚駅での開催を予定していたが、台風の影響により中止

3 「安全で安心できる社会」の実現に関わる事業

(1) あしなが育英会への助成

事故や災害、病気等様々な理由で親をなくした子どもたちへの心のケア活動の一環として取り組んでいるあしなが育英会が主催する「高校奨学生のつどい」及び小・中学生を対象とした「キャンプのつどい」に対し、寄付助成を行った。平成 23 年度は、関西地区における「高校奨学生のつどい」が 8 月 7 日から 12 日まで、324 名の奨学生とリーダー役や運営スタッフとしての先輩奨学生たちが参加し開催された。また、小・中学生を対象とした「キャンプのつどい」が、8 月 24 日から 26 日まで、76 名の子どもたちと学生ボランティアの方々が参加し開催された。

(2) 関西いのちの電話及び神戸いのちの電話への助成

心のケアのより一層の充実・増進を図るため、福知山線の沿線地域で市民からの電話相談事業に取り組んでいる関西いのちの電話及び神戸いのちの電話における電話相談員のスキルアップやメンタルケアに関する活動に対し、寄付助成を行った。平成 23 年度は、各団体において専門家による実践的な知識、スキルの習得に向けた教育、研修やメンタルヘルスが行われた。

(3) 地域における各種活動等に対する支援協力

当財団では上記のほか、財団の設立趣旨に合致し公益性や社会的必要性が高いと認められる活動に対し協賛を行っている。平成 23 年度は、京阪神に拠点のある遺族会のネットワーク化を目指した遺族会の交流会やいのちの電話の近畿ブロック研修会に対して協賛を行った。

4 公募助成事業

(1) 「平成 24 年度公募助成（活動・研究）」及び「東日本大震災に関する活動助成」

当財団では、設立初年度より、事故・災害が起こった際の備えやその後のケアに関連する活動・研究を対象とした公募助成を実施している。平成 23 年度は、次の 2 つの公募助成を実施した。

① 「平成 24 年度公募助成（活動・研究）」

平成 22 年度までの募集内容等を踏まえつつ、より応募しやすいテーマ設定としたうえで、平成 24 年度に行われる活動や研究を対象とした助成事業の公募を実施した。その結果、助成の趣旨に合致する大変質の高い応募が多数寄せられたため、当初計画していた助成金総額 2,500 万円を超え、26 件 2,879 万円の助成を行った。

平成 24 年 3 月には、助成対象団体や研究者の方を対象に公募助成贈呈式を開催するとともに、助成先相互のネットワークづくりを目的に交流会を実施した。

② 「東日本大震災に関する活動助成」

東日本大震災の被災地等への緊急且つ長期的な支援が必要な状況を鑑み、被災地及び被災者の方々への支援・救援活動や心のケア等の活動を対象とした助成事業の公募を 4 月と 10 月に行った。時宜に即したタイムリーな支援を行うため、審査選考を可及的すみやかにを行い助成金の支出（計 20 件、991 万円）を決定した。

〔助成実績〕

| | | 助成実績 | | |
|------------------------------------|-------|----------|------|----------|
| | | 応募 件数 | 件数 | 金額 |
| 平成 24 年度 公募助成 (10 月募集) | 活動助成 | 40 件 | 19 件 | 1,581 万円 |
| | 研究助成 | 36 件 | 7 件 | 1,298 万円 |
| | 計 | 76 件 | 26 件 | 2,879 万円 |
| 東日本大震災に関 する活動助成 (4 月、10 月募集) | 第 1 回 | 57 件 | 10 件 | 495 万円 |
| | 第 2 回 | 31 件 | 10 件 | 496 万円 |
| | 計 | 88 件 | 20 件 | 991 万円 |
| 合計 | | 164 件 | 46 件 | 3,870 万円 |

(2) 活動助成報告会

単に助成金の支出を行うだけでなく、助成活動の成果の社会的還元や助成先同士の交流といったことを目的に、平成 22 年度に実施された助成活動の成果発表を行う「活動助成報告会」を平成 23 年 9 月に開催した（参加約 70 名）。

II 財団運営に関わる事項

1 機関運営（評議員会、理事会、事業審査評価委員会の開催）

(1) 評議員会

開催回数：1 回

決議事項等：平成 22 年度計算書類等の承認、理事の選任 等

(2) 理事会

開催回数：7回

決議事項等：理事長による業務執行状況等のほか、以下の事項について決議を行った。

「東日本大震災に関する活動助成」の実施及び助成先の承認、平成22年度事業報告及び計算書類等の承認、事業審査評価委員会委員及び重要な使用人の選任、評議員会の招集、代表理事の選定、「平成24年度公募助成（活動・研究）」の基本方針及び助成先の承認、財団主催講座等の実施の承認、平成24年度事業計画及び収支予算の承認、基本財産の運用基本方針の承認等

(3) 事業審査評価委員会

開催回数：8回

審議事項等：理事長からの諮問に基づき、以下の事項について審議を行い、理事長へ答申を行った。

「東日本大震災に関する活動助成」の募集内容及び助成先の審査、平成22年度助成事業の実績・成果等の確認評価、財団主催事業の実施に関する指導・助言、「平成24年度公募助成（活動・研究）」の募集内容及び助成先の審査等

2 その他

(1) 基本財産の運用

前年度から保有する基本財産15億円は、西日本旅客鉄道株式会社の無担保社債（20年物）により10億円、国債（20年物）により5億円を継続して運用を行うとともに、新たに西日本旅客鉄道株式会社から基本財産として5億円を受け入れ、国債（20年物）により運用を行った。

(2) 広報活動および情報公開

当財団のホームページにおいて、財務資料等の基本情報の開示や財団事業の実施概要、実施結果等の公表を行った。また、事業実施時におけるプレス発表のほか、助成先情報を含めた報道関係者に対する定期的な情報発信、JR主要駅へのポスター・パンフレットの掲出、財団紹介用パンフレットの製作・配布、広報誌「JR西日本財団NEWS」の発行（平成23年6月、9月、平成24年1月）など、財団及び財団事業の認知度向上のための広報活動に努めた。